

1. 実況上の着目点

- ① 500hPa 5880m以上に対応する上層の高気圧が西日本～南西諸島付近を覆っている。日本付近は日本の東に中心を持つ高気圧に覆われ、晴れて気温が上昇し、広い範囲で真夏日となり西日本を中心に猛暑日となっている所がある。西日本では大気の状態が不安定となり、局地的に雷を伴って激しい雨の降っている所がある。
- ② 500hPa 5820m付近のトラフが日本海を東進。
- ③ 沖縄近海では、①の高気圧縁辺の下層暖湿気の影響で大気の状態が不安定となっており、対流雲が発達。1時間に20mm前後の強い雨を解析、雷を検知。



主要じょう乱解説図

2. 主要じょう乱の予想根拠と防災事項を含む解説上の留意点

- ① 1項①の上層の高気圧は7月1日にかけて西日本～南西諸島付近に停滞し、地上の高気圧は1日にかけて日本の東をゆっくり南東に移動する。日本付近は1日にかけてこの高気圧に覆われ、全国的に日中は気温が上昇して真夏日や猛暑日となる所もある。熱中症などの健康管理に注意（熱中症警戒アラート参照）。
- ② 1項②のトラフは29日夜から1日にかけて東～北日本を通過する。また、1日は、300hPaで-33℃以下の寒気を伴うトラフが西～東日本を通過し、別の-33℃以下の寒気を伴うトラフが日本海を南東進して夜にかけて東～北日本に接近する。一方、地上の高気圧が東へ移動することに伴い西～東日本を中心に高気圧縁辺の西回りの下層暖湿気が流入しやすくなる。上空の寒気、下層暖湿気、日中の昇温により大気の状態が不安定となり、雷を伴い激しい雨や非常に激しい雨が降り大雨となる所がある。東日本では1日にかけて、北日本では1日は、土砂災害、低い土地の浸水、河川の増水に注意・警戒。南西諸島と西～東日本では1日にかけて、北日本では30日～1日は、落雷や突風、降ひょうに注意。
- ③ 30日はオホーツク海やアムール川下流付近の低気圧と2項①の高気圧との間で気圧の傾きが大きくなり、強い風の吹く所がある。北海道地方では30日は強風に注意。

3. 数値予報資料解釈上の留意点 総観場はGSMを基本、量予想や降水分布はMSMやLFMも参考。

4. 防災関連事項〔量的予報等〕

- ① 雨量(18時からの24時間)：多い所(100mm以上)はない。② 波浪(明日まで)：高い所(3m以上)はない。③ 高潮(明日まで)：大潮の時期。西～東日本では、注意報基準を超過する所がある。

5. 全般気象情報発表の有無 発表の予定はない。